

## 『とりなしの祈りと希望』 エレミヤ書14章1～9、20～21節 2015.3.15(日)

『…私たちの背信ははなはだしく、私たちはあなたに罪を犯しました。イスラエルの望みである方、苦難の時の救い主よ…あなたは私たちの真中におられます…私たちを、置き去りにしないでください。』エレミヤ書14章7～9節

エレミヤ 14:1～6 に神の裁きとしての飢饉の悲惨な描写がある。背信の故に、神の裁きが決定的となる中、民はどうすべきだったのか？

①まずは神の預言を正しく聴き直すべきだった！民は、神の裁きとその理由を聞いたにも関わらず、神の言葉より偽りの預言者の言葉「剣も飢饉も疫病もない！あるのは平安だけ！」を信じた。罪の指摘もない、悔い改めも迫らない、耳に心地良い言葉だけを求め、偶像礼拝を止めなかった。主イエスも『にせ預言者たちには気をつけなさい(マタイ 7:15)』と警告。偽りの預言は絶対に実現しない！聖書が「神の言葉」である最大の理由は、その預言の全てが、人類の歴史を通して実現してきたことにある！ユダヤ人に関する預言(3回も祖国を失い、約 2600 年間離散していた民が、預言通り祖国再建)、キリスト預言(約 350 箇所)も、全て実現！

②第二に、人が御前に正しく生きるように教える神の御声を聞くべきだった。『その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせ…(ヨハネ16:3)』。神は、ただご自分の正しさをぶつけるだけでなく『私の目は夜も昼も涙を流して、やむことがない。私の民の娘、おとめの打たれた傷は大きく、いやしがたい…(エレミヤ 4:17)』と、エレミヤと一体となって泣き、悲しまれた。この神の憐れみに向かって、エレミヤはとりなしの祈りを捧げた。この深い憐れみを知る時、どんな対立があっても、悔い改めて向き合い、一致の道を選択できる！ここに『将来と希望の計画(エレミヤ 29:11)』がある。

エレミヤは神を「イスラエルの望み(ミクウェ- 8 節)」と呼ぶ。ミクウェとは『水源』の意。神が天の水門を開いてこそ恵みの雨は注がれる。希望と水源とは直結していた。順境でも逆境でも変わらず主に向き、御名を呼び、主に叫ぶとき、必ず答えがある。本当の希望は、神ご自身にあり、本当の平安はこの源である神様と結ばれてこそある！

## 『幸せになるための神の知恵』（結婚式の式辞より）2015.3.21(土)

『私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。…』 哀歌 3:22～23

神様の御心は、すべての人が幸せになることである。神に創られた者は、どこで幸せを見つけるのか？人は、神の口から出るひとつひとつの言葉で生きる(マタイ 4:4)とある。つまり、幸せな生涯には神の言葉(神の知恵)が必要なのである。❶第一の知恵は、『過去からの解放』である！神のいつくしみ、恵みは、朝ごとに新しいとある。過去にどんなに辛い思い出があり、どんなに悲しい出来事があり、昨日が最悪と思える日であったとしても、朝を迎えるたびに、神は新しく恵みを注ぎ、新しい一日を始めさせてくださる！朝ごとに、「今日が、あなたの人生の初めの日だよ」と語りかけてくださるのである。

❷幸せへの第二の知恵は『将来の不安からの解放』である！主は『…あすのための心配は無用です。…労苦はその日その日に、十分あります(マタイ 6:34)。』と言われる。ある人は、明日どこか一週間、いえ何年分もの心配や不安を『今日』背負い込んで潰れかけている。神様は、一日一日の重荷を負うのに必要な力を下さる。昨日は過ぎ、明日はまだ来ていない。だから、その日一日一日に集中し、『今』目の前にいるパートナーを愛し支え、『今日』の相手の必要に集中する！これが幸せの秘訣である。今日一日頑張ることだけを考える！これが「一日一生」の幸せである。

❸そして幸せになるための第三番目の知恵…『今』を最高の幸せで満たす知恵は、『感謝すること』である！それは、幸せにしたい人と、「いつも有難う」という言葉・態度で向き合うことである。感謝する人は幸せな人、感謝される人も幸せな人なのである。ある方が言った。『人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる！』と。

結婚生活は(いや、全ての人生は)、祈りの生活である。人生には、力を合わせ、努力して、なんとかなるものもあれば、どんなに頑張ってもどうにもならないものがある。だから祈る。「今日も事故やケガから守られますように／今日も元気で笑顔でおれますように／今日も感謝を忘れることがないように…」。

一日一日を神に守られ、支えられる幸せを、共に祈り求めていこう！

## 『神に信頼する幸せ』 エレミヤ書 17章5～9節 2015.3.29(日)

『主に信頼し、主を頼みとする者に祝福があるように。その人は、水のほとりに植わった木のように、流れのほとりに根を伸ばし…暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、いつまでも実をみのらせる。』エレミヤ 17:7～8

神の御心は私たちが祝福することだが、あなたは生活のあらゆる場面でその幸せを実感しているか？エレミヤ 17:9『人の心は何よりも陰険で…直らない』とあり、私たちが神の祝福から遠いことを告げる。「陰険(ア-コブ)」とは「押しつける・欺く」の意。私たちは神を押しつけ、その愛も赦しも慰め認めず、まるで神がないかのように自己中心に生きている！『…良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結ぶ…(マタイ 7:17～19)』。『良い木』とは『実を結ぶ木』のことで自然界には存在しない！『その人は、水路のそばに植わった木のように。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える(詩篇1:3)』。『植わった』は受動態で『水のほとりに植え替えられた木』の意！「悪い木」は、砂漠に生えたまま、葉も茂らず、実を結べない。『良い／悪い』は善悪の問題ではなく、神への信頼の有無のこと！「呪いの人生」とは、命の泉である神から離れ、頑張っているのに空しく、生きる意味を見失った人のこと！一方「祝福の人生」は、あらゆる場面で神を信頼するので、逆境や困難に関係なく、常に実を結ぶ(エレミヤ 17:5～8)。①呪いから祝福へ至る第一のポイントは、キリストを信じ、その罪と罰から救われたかどうか。イエス様は『私たちの代りに呪いとなられた(ガラテヤ 3:13)』。罪の奴隷(自己中心)の人生から、罪から救い、呪いを解いて下さるお方を礼拝する人生へと『植え替えられる』必要がある。②第二に、この世のものへの依存からの解放！主は言われた『たとえ全世界を手に入れても、あなた自身を失ったら何の得もない(ルカ 9:25)』と。お金も健康も趣味も仕事も、それを下さった神以上に執着するものではない。③そして最後に究極の祝福である「永遠」に対する備えを持つこと！私たちに命を与え、その故に慈しみ、幸せを備えて下さるお方を知り、その方に命を委ね、信頼して生きる時、そこに溢れるのは感謝のみ！